

## 第2回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録（ダイジェスト版）

令和2年8月28日、播磨内陸生活文化総合センター「ドウジアム」において、「第2回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議」を開催しました。

会議では、まず、當山清実会長を講師に、「社会に対応する学校教育の方向性について」と題して講義いただき、検討会議の審議を深める上での重要事項について、委員間で共有しました。

講義終了後、「新たな時代に適応していくために必要な資質・能力や教育のしくみについて」をテーマに、家庭や地域の子どもたちを思い浮かべながら、委員による意見交換を行いました。



▲ 第2回検討会議の様子



▲ 當山会長（兵庫教育大学教授）による講義

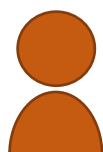
### ～講義内容～ ※資料からの一部抜粋

- 教育再生による経済成長
- Society5.0（ソサエティ5.0）
- 学校現場が抱える課題
- 学校や教員の役割の変化  
「チーム学校」の実現による学校教職員等の役割分担の転換
- 今後の社会において求められる能力
- これからの教育課程の理念
- 学校の小規模化による影響
- 学校再編という課題の特異性

## 各委員の意見

新たな時代に適応していくために必要な資質・能力や教育のしくみについて…

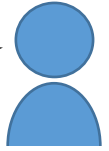
委員間での意見交換の一部をご紹介します。



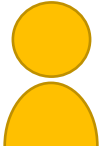
子どもたちに変化に対応する力を付けさせることが大切ではないか。社会が変化し、その変化を自身で受け入れる能力や相手の話を理解する能力、自分の意見を相手に伝える能力など、多様性を認めながら人々との関係の中で自己を発揮する、ともに生きていく能力が求められると思う。

裏面に続きます。

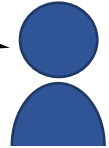
児童生徒のそれぞれの能力に応じた居場所のある学校であってほしい。教員の尽力のみならず、保護者としてできる限りともに推進したい。



“非認知能力”を高めること、就学前に子どもの“根っこ”の部分の教育を固めておくことで、小中学校で心が折れそうなときでも耐えることができるのではないか。就学前における大人の影響は大きいのではないかと。



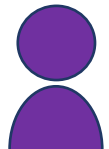
西脇市においても少子化が進んでおり、今の新生児が小学1年生になるときに多くの小学校で1クラスも編制できない状況を知り、とても驚いた。



学級担任が子どもに与える影響は大きい。教員の人間力、指導力がとても大切だと思う。学校教育はもちろん、家庭教育においても親が子どもの人間的、能力的資質の向上を図らなければならないと強く思う。



人前に立ち発言する場をつくり、自分の意見を自分の言葉で発言できるような練習をしている学校もある。言葉の力の育成はどのような時代でも必要である。



地元に残り、自身が住む自治会の発展に尽力する人材を求める。



このほかにも、たくさんの意見が出されました。（広報にしわき10月号もご参照ください。）

## 地域での意見をお聞きします！

第2回検討会議において、委員から、各小学校区や中学校区の環境が異なること、第1回検討会議において「地域の中の学校」との観点から議論を深めるべきとの意見があり、広く地域の意見をお聞きするため地域性のある会議を開催してはどうか等の意見が出されました。

このことから、検討会議と並行して西脇中学校区（西脇地区、津万地区、日野地区）、西脇東中学校区（比延地区）、西脇南中学校区（重春地区、野村地区、芳田地区）、黒田庄中学校区（黒田庄地区）において、順次地域の会議を開催していく予定です。

西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議事務局  
（西脇市教育委員会 学習環境規模適正化推進室）

西脇市西脇771-7 ☎0795-22-3111(代)

